

## 小山をよくする会

続：歴史と文化を活用した地域づくり  
～ふるさとを誇る住民意識の啓発事業～



赤枠で囲われたところが小山地区

### 1 基本データ

大野市小山地区は、人口約2千人、世帯数は約650戸。15の集落で構成される緑豊かで自然にあふれた農村地域です。

面積は、東西2キロメートル、南北4キロメートルの約8平方キロメートル。その位置は、大野市の南西部、市街地に隣接し、大型ショッピングセンターなどの商業施設が立地しています。

その歴史は古く、地区内を南北に縦断する赤根川流域を中心に縄文時代から人が住み着いており、大きな勢力を持っていたと思われる豪族の古墳がいくつも存在しています。

平安時代には藤原氏の荘園となり、その後、京都の春日大社と深い繋がりを持ちながら、現在まで、地区有数の農村地帯として発展してきました。

本事業の実施主体は、地区内全戸を会員とする小山をよくする会です。

事務局を小山公民館に置き、地区内から選出された会長1人、副会長2人と、各集落の代表として選出された推進委員45人で話し合いを行いながら、明るく豊かで住み良い地域づくり

を目指して活動しています。

### 2 現状と課題

小山地区は、大野市内でも有数の歴史を誇る地域です。

公民館の歴史講座を受講したことをきっかけに、平成18年頃に地域の歴史を学習するグループが生まれ、地域史の掘り起こし活動が行われてきました。

しかし、地区住民の多くに、地区の歴史に関心をもっていただく活動を広げていくことは簡単なことではなく、地域住民の地域の歴史に対する関心はそれほど高くなっていないのが現状です。

そこで、平成22年度に始まった「越前大野地域づくり交付金事業」を活用して、地区の歴史と文化を活用した地域づくり事業を行うことにしました。

事業を実施するにあたっては、二つの目的をたてて計画しました。

1つは、地域の歴史や文化を掘り起こし、地区住民にお知らせしていく「歴史と文化の里づくり事業」。

もう1つは、地域が一丸となれる地域を醸成するため、地域コミュニティづくりを支援しようという「地域コミュニティ支援事業」です。

平成23年度も、前年度と同様に、この二つの事業に取り組みました。

### 3 事業の内容

#### ①歴史と文化の里づくり事業

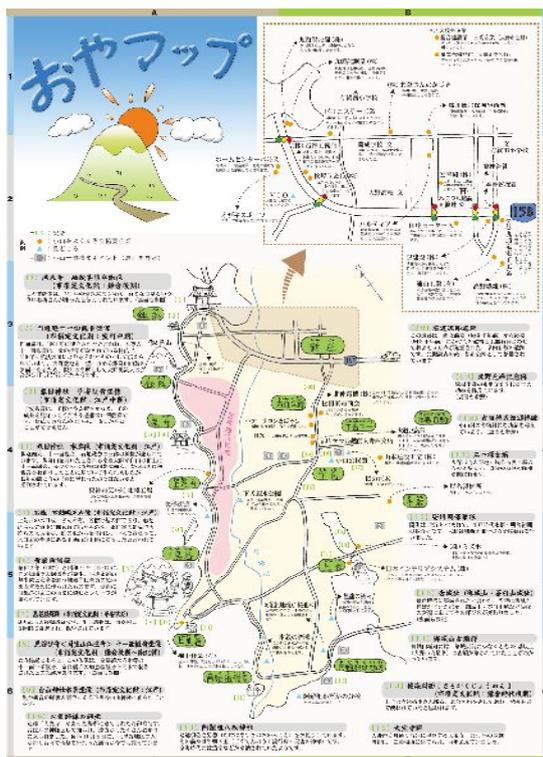
この事業としては、3つのことに取り組みました。

1つ目は、地区の歴史と文化をわかりやすく表現したデジタル地図の制作です。

地域づくりを目的とした地図は、通常、紙資

料として印刷をして、地区全戸等に配布するという事業が多いように思いますが、私たちは、地図をデジタルデータとして制作しました。

地区の史跡情報とともに掲載した、変わり行く地域の文化情報の更新が行いやすい地図にしたいと考えたためです。



小山地区を紹介するデジタル地図

デザインや挿絵は地区在住の方の協力を得ることができました。

地図面の裏側には、小山地区の歴史や民話等を紹介する読み物を掲載しました。

このデジタル地図は、インターネットを通じて、ホームページ (<http://ono-city.jp/oyamap/>) から誰もがいつでも閲覧・印刷できるようになっています。



### 地図裏に制作した読み物面

もちろん、地図データは、印刷業者できれいに印刷することも可能です。

印刷後は、折り畳むことにより、コンパクトな地図として使用しやすいデザインになっています。

紙資料として、地図を活用すべきタイミングが訪れ、印刷するための財源が出来た折には、即座に紙資料として印刷して活用できます。

将来、この地図が、多くの人に活用され、地域活性化の一翼を担うことに期待をしたいと思います。

2つ目は、史跡探訪ツアーの実施です。

ツアーは、6月5日（日）に実施。



史跡巡りウルトラクイズの様子

あまり地域の歴史に関心のない人も参加しやすいようクイズ大会形式で実施しました。

コースは、昨年度の地域づくり交付金事業で設置した史跡看板がある場所を中心に巡るようにし、14名が参加しました。

参加者が思ったより少なかったのは残念でしたが、昨年設置した史跡看板の状態を確認しながら、楽しく小山地区の歴史を学ぶことが出来ました。

3つ目は、歴史講演会です。

公民館とタイアップし、昨年度に引き続き、元福井県埋蔵文化財調査センター所長お青木豊昭氏をお招きして行いました。

講座には、32人が参加。



歴史講座の様子

6月に青木氏が行った史跡の現地調査により明らかにされた、上舌地区にある「舌城址」の歴史的価値について学びました。

これら3つの事業の実施により、小山地区の価値ある歴史について、多くの住民の皆さんに知っていただく場を提供することができました。

#### ②地域コミュニティ支援事業

平成23年度の地域コミュニティ支援事業は、地区住民に呼びかけ、事業企画を公募することになりました。

公募は平成24年1月から3月上旬の期間で行い、小山をよくする会の役員や区長会を通じて各地区に呼びかけたほか、公民館に協力をいただき、広報誌でも募集しました。

その結果、5地区と1団体から、想定していた金額を上回る企画の申請がありました。

事業予算想定額を上回ってしまったため、事業の審査を行う必要がでてきたのですが、各事業において、想定額を上回る金額が高額でなかったことが幸いし、各申請団体と話し合いのうえ、事業予算の減額と内容の見直しを行うことで問題は解決。申請のあったすべてを実施する方向で市に事業申請を行い、採択していただくことができました。

阿難祖地頭方地区では、以前、住民の協力により造成していたビオトープの水車が壊れてい

たため、その修繕を行いました。



阿難祖地頭方区の水車修繕

阿難祖領家地区では、地区のまつりが行われる牛頭神社への道をコンクリート舗装し、高齢者の方や障害を持たれた方でも車椅子等で危険なく参加できるようになりました。



阿難祖領家地区の道路舗装

下黒谷地区は、地区集落センター広場の雑草地を、コンクリートで整地する事業を行いました。

下黒谷地区の集落センター広場の整備



千歳地区は、地区集会センター広場の雑草地に芝生を植栽しました。



千歳区の集落センター広場への芝生植栽

右近次郎地区では、小山地区の幹線道路沿いとなる生活改善センターの花壇が古くなったため、花壇の改修を行いました。



右近次郎地区の花壇整備



キッズフェスタの様相

事業は、行政区としての取り組みだけに留まらず、住民有志で結成したキッズフェスタ実行委員会による、地区内外の方との交流を目的と

した「キッズフェスタ」も開催されました。

#### 4 事業の成果

##### ①歴史と文化の里づくり事業

史跡看板を活用してのツアー企画は、昨年度の取り組みを有効活用できた企画となり、昨年度の事業の意義を高めることができました。

また、今年度制作したデジタル地図は、看板と比べ、場所を選ばずに見ることができるため、地区住民が、地区の歴史や文化に対してより気軽に関心を持っていただけるツールになると思います。

それぞれの事業により、地区の歴史に関心を持っていただくための環境を整えることができました。

##### ②地域コミュニティ支援事業

初めて地区住民から事業企画を公募し、意欲のある地区や住民を支援することで、効果的に地域コミュニティづくりを行うことができたと考えています。

また、地区のニーズが反映された多種多様な取り組みが生まれたことも大きな成果であると思います。

#### 5 今後の展望

2年間、継続して同じテーマに取り組んだ結果、「歴史と文化の里・小山」づくりを意識する住民が徐々に増えてきました。

現在、この事業とは別に、前述の歴史学習グループが、地域の歴史を掘り起こし、その結果を冊子にしようという動きも出てきています。

地域コミュニティが活性化し、このような地域での自主的な地域づくりの機運がもっと出てくるよう、小山をよくする会として、今後も粘り強く地域づくりに取り組んで行きたいと思えます。